

円山川大規模氾濫減災対策協議会 第二回協議会 議事録

日時：平成28年7月21日（木） 10:00～11:00

場所：豊岡市立交流センター「豊岡稽古堂」3F 交流室

参加者

豊岡市 市長
気象庁神戸气象台 台長
兵庫県但馬県民局 総務企画室 室長
兵庫県但馬県民局 豊岡土木事務所 所長
近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所 所長
(事務局)
近畿地方整備局 豊岡河川事務所 建設専門官

1. 決議事項

「円山川の減災に係わる取り組み方針（案）」について

- ・具体的な取り組み方針（案）の記載内容については、協議会委員より合意を得た。
- ・減災のための目標の記載については、案を作成し、調整する。

2. 主な意見 ほか

- ・観測記録や気象予測等の災害活動に係る重要な情報は、情報提供者がどのような情報を扱っているのか、どの程度の精度があるのか等を、各関係主体が把握したうえで、活用することが重要である。
- ・毎年、出水期前に協議会を開催し、取組の進捗確認や改良、改善等のフォローアップを実施していく予定である。

以 上

議事録未掲載その他意見

- 想定最大規模の降雨およびこれに伴う洪水は、起こりうることを前提として、対応策を検討することが重要である。（気象庁）
- 円山川の地形特性や浸水特性を踏まえると、最初から想定最大規模の洪水を想定して対策するのではなく、まずは、計画規模相当までの洪水に対する施策を重点的に実施し、そのうえで第二段階として、想定最大規模までを想定した取組を段階的に実施していくことが重要である。（近畿地整）
- 減災のための目標では、想定最大規模(1/1,000)の洪水を将来的に取組むのか、先に取組むのかによって記載方法は変わると思われる。「大規模な水害」というのはどういうものなのかは、市民は認識しておらず、計画規模でも大規模であると認識している。「大規模な水害」の規模を明確に示すべきではないか。（兵庫県）
- 豊岡市の地域性を考慮すれば、まずは計画規模の対応を行い、想定最大規模の洪水時に何ができるのかを考えていくことが現実的な方針であることから、目標の記載では、取組方針の意図を明確にすることが重要である。（兵庫県）